

国語科パート(5年ブロック)

単元名 椋鳩十作品のよさ、伝えます！ ～グッとポスターで紹介しよう～

学習材名 「大造じいさんとがん」椋鳩十作品他

(目指す児童像)

物語のクライマックスをとらえ、自分の考えを広げたり深めたりできる子。

つきたい力

(領域)「C読むこと」目標

(3)目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

①物語を深く読む力

登場人物の相互関係や優れた叙述をとらえ、自分の考えをまとめることができる。

②自分の考えを広げ深める力

本や文章を読んで考えたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりする力。

③クライマックスを読む力

物語のクライマックスに注目して、複数の本や文章などを比べて読み、作品のよさを考える力。

<学習内容の確実な定着を図る指導の工夫・改善>

① 確実な定着を図るための展開の工夫

- ① 単元構成の工夫
ABワンセットで構成する。
- ② ワークシートの工夫
課題に対して自分の考えをもつことができるようにする。
- ③ 多読・並行読書
読みを深められるようにする。

② 確実な定着を図るための指導と評価の工夫

- ① 毎時間の振り返り
めあてに沿って書くことで、次時の学習につなげる。
- ② グループ交流での学び合い
自分の考えと友達の考えを比べさせる。

<学習意欲を高める指導の工夫・改善>

③ 意欲をもたせる工夫

- ① 相手意識
来年度学習をする4年生に紹介する意識をもたせる。
- ② 目的意識
「グッとポスター」にまとめる。
- ③ 導入の工夫
椋鳩十掲示コーナーを作り、ブックトークを取り入れる。

④ 意欲を持続させる工夫

- ① ABワンセット方式
習得、活用を確実にに行い、学習成果を実感させる。
- ② 言語活動の工夫
「グッとポスター」を書くという目的につながっていることを意識させる。

単元の目標

○椋鳩十の作品に関心を持ち、作品の優れた叙述のよさを味わいながら読み深めようとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○登場人物の相互関係や、心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えを深めることができる。

(読むこと)

○目的に応じて、複数の本や文章などを比べて読むことができる。

(読むこと)

○情景描写や文脈に応じた語句を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

【本時の授業の実践と考察】

本時(3/5時)

(※ 考察)

1 前時の学習内容をふり返る。

手だて①-③ ④-②

T: 前の時間は、大造じいさんとがんのクライマックスについて学習しました。

2 本時の課題を知る。

課題 椋鳩十作品のクライマックスについて、いろいろな視点で考えよう。

3 自分の考えを確認し発表する。(一人学び) 手だて1-②



親グマが子グマを、自分の命をかけて助けたところで登場人物の気持ちが変わったな。

4 グループで交流する。 手だて2-②

C: 親グマの勇氣ある行動に感動したのだと思う。

C: ぼくは、その親グマの勇氣ある姿に、子どもを思う気持ちが強いんだと思ったよ。愛情深いところに心をうたれたのではないかな。



C: 私は、動物なのにあんなに命がけで子を守る姿に尊敬できるほど心を打たれたのだと思うよ。

C: わたしもそう思います。動物の姿を見て感動したから打たなかったんだよね。人間が動物に対して尊敬したり感動したりしているよね。

※一人ひとりが考えた意見を発表し、友達のことを知ったことで、様々な視点から理由を考えることができた。

5 全体で交流をする。 手だて1-③

T: 月の輪グマでは、ただ母グマがすごいから打たなかっただけではなく、こんな危険な状況に追い込んで申し訳ない、「後悔」の気持ちが人間にあるかもしれないね。



C: 金色の足あとでは、正太郎の危ないところをキツネたちが助けてくれたから、正太郎の両親は動物に「感謝」の気持ちをもったと思う。

※様々な視点から登場人物の気持ちが変わった理由を考え、その作品のよさを知り、自分の考えを深めることができた。

6 作品のメッセージについて考える。 手だて1-③

7 学習の振り返りをする。 手だて2-①

【指導講評】さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事

米玉利 優子先生

○クライマックスをとらえたい、作品のメッセージをとらえたいと、やることを絞って学習していた。

今の学年の子ども達に何の力をつけたいかということを確認にしたことがよい。

○ABワンセットは浦和別所小の子ども達にとっては効果的であると思う。また、子どもがやってみたくなる、つけたい力にぴったりの言語活動がよい。

●「いろいろな視点」という言葉が曖昧で分かりづらい。「いろいろな」とはどういうことなのか、具体的に提示する必要がある。

●先生はなるべく話さない。どんな発問や指示をすれば子ども達がたくさん話し合いをすることができるか。自分たちでどんどん話合えるとよい。